

平成14年度全国高校総合体育大会第55回全国高等学校バスケットボール選手権大会

平成14年 8月6日(火)

会場 日立市市民運動公園中央体育館

【男子の部】 第5日目 準決勝 Aコート 第4試合

チームA 県立能代工業 秋田	111	{	35 1Q 26 25 2Q 12 23 3Q 18 28 4Q 24 OT	}	80	チームB 土浦日本大学 茨城
-----------------------------	-----	---	--	---	----	-----------------------------

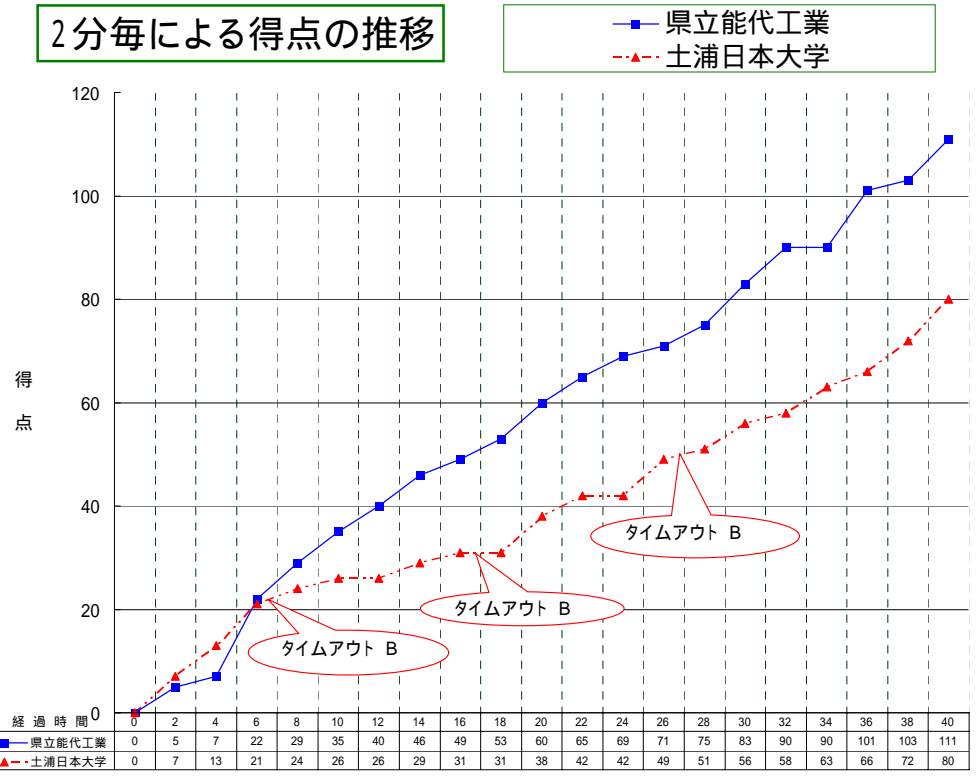
県立能代工業

番号	氏名	得点	3P		2P		1P		反則	リバウンド		ターンオーバー	スチール	アシスト	ブロックショット	出場時間 単位:分
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	黒政 成広	8	0	1	4	9	0	0	4	0	0	3	4	5	0	37
5	高久 順	16	0	0	6	10	4	5	2	2	9	0	0	2	0	37
6	吉田 政徳	4	0	0	2	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3
7	内海 慎吾	25	3	8	8	14	0	0	1	5	14	1	1	0	2	37
8	富田 敏幸	20	4	8	4	13	0	0	2	2	1	1	2	8	0	33
9	高橋 優	30	8	19	3	4	0	0	4	4	3	2	2	6	0	33
10	梅津 敬介	2	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3
11	土崎 貴宏	2	0	0	1	1	0	0	0	2	3	0	0	0	0	4
12	柴田 博満	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	2	0	4
13	宮城 徹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
14	梁川 禎浩	4	0	0	2	3	0	0	0	0	0	2	0	1	0	3
15	二田 洋志	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3
コーチ	加藤 三彦								0							
		111	15	36	31	58	4	6	15	16	33	10	9	24	3	200
		確率	41.7%		53.4%	66.7%			計	49						

土浦日本大学

番号	氏名	得点	3P		2P		1P		反則	リバウンド		ターンオーバー	スチール	アシスト	ブロックショット	出場時間 単位:分
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	岡田 優介	35	7	15	6	11	2	3	2	2	1	3	2	2	1	37
5	田中 俊光	6	0	2	3	4	0	0	2	0	5	3	2	3	0	28
6	平松 翔吾	6	0	0	2	9	2	2	3	2	3	0	0	3	0	27
7	筒井 祐輔	12	4	5	0	0	0	0	0	0	3	1	0	2	0	19
8	荒木 良太	7	0	0	3	7	1	1	1	6	4	0	0	1	0	38
9	中山 和人															DNP
10	福島 孝太	11	2	9	2	7	1	2	1	0	1	3	2	2	0	33
11	大串 徹也															DNP
12	廣瀬 敦															DNP
13	皆藤 拓也															DNP
14	松永 薫	3	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
15	渡部 司佐	0	0	0	0	3	0	0	4	0	2	0	0	0	0	15
コーチ	佐藤 豊								0							
		80	14	33	16	42	6	8	13	10	19	10	6	13	1	200
		確率	42.4%		38.1%	75.0%			計	29						

2分毎による得点の推移



戦評

男子準決勝の第2試合は3連覇を狙う第1シードの能代工と地元インターハイで10年ぶり3度目の優勝を狙う土浦日大の伝統校対決。2回戦からの3試合で平均44得点の土浦日大のスーパーエース#4岡田に対して能代工がどう対応するか、また能代工のセンター#5高久に対して土浦日大がどう対応するかが注目された。

第1P、両チームとも伝統の2-1-2ゾーンを敷く。開始早々、地元応援の大歓声を背に土浦日大#4岡田が大爆発。連続3Pでリードを奪う。土浦日大#10福島のスチールからの速攻も飛び出し、ここぞとばかりにゾーンプレスを仕掛けるが、ここであせらないのが能代工。いつもどおりの落ち着きで#8富田、#9高橋が次々と3Pを沈め、あっという間に差を詰める。また能代工は、変則の2-1-2ゾーンで土浦日大#4岡田だけはディナイし、簡単にはボールを持たせない。土浦日大の得点が伸びなくなる中、能代工はプレスで土浦日大のガード陣のミスを誘うなどでリードを奪い、35-26と能代工9点リードで第1P終了。

第2Pになると、能代工の変則2-1-2ゾーンが更に効果をあげる。土浦日大は#4岡田がディナイされている上、能代工ゾーンの持つ独特の「間」に攻めのリズムが完全に狂ってしまい、極端にシュートの決定率が落ちてしまう。能代工は#7内海、#5高久らが着々と得点。大きくリードを広げ、60-38で第2P終了。

何とかして差を詰めたい土浦日大はゾーンプレスを敷き積極的にボールを奪いに出るが、能代工の選手たちは全く慌てず。終始余裕を持ったゲーム運びで111-80で快勝。決勝進出を決めた。

敗れはしたものの、土浦日大は地元開催のインターハイで見事3位、大会を大いに盛り上げてくれた。ウィンターカップでの巻き返しに期待したい。

主審 湯浅 暢宏

副審 渡辺 雄吉

記入者 中村 宏